

2015年8月21日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

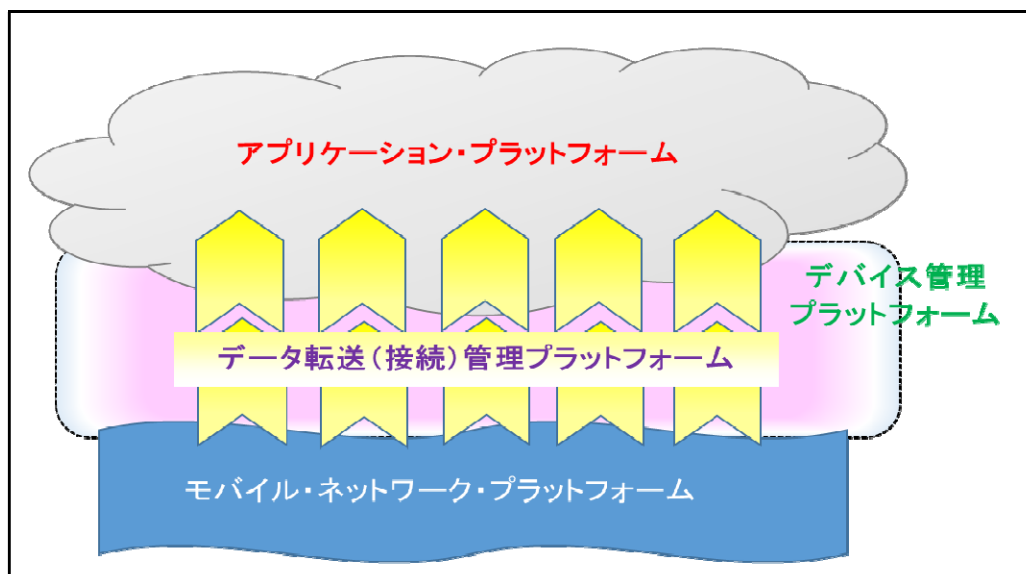
M2M/IoT プラットフォーム市場の成長が徐々に加速

～ トライアルでの利用から本格運用への移行が始まる ～

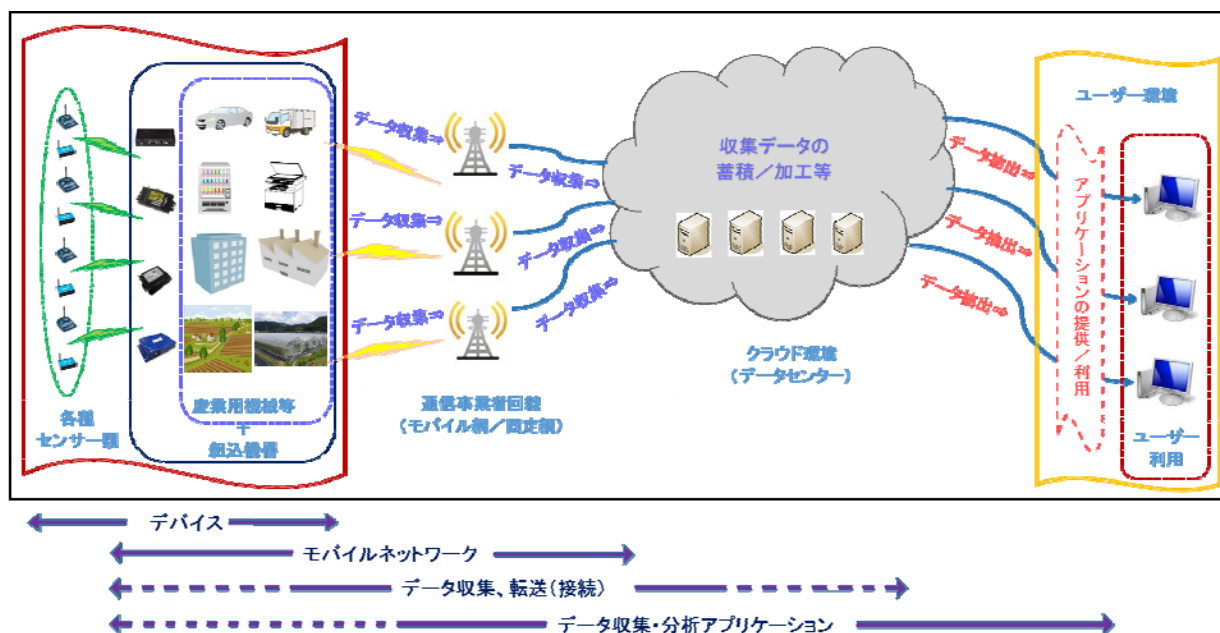
株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内における携帯電話や PHS、WiMAX などのモバイル回線を利用した M2M (Machine to Machine) 市場に関する調査報告書『国内モバイル M2M 市場動向調査』シリーズの第 3 弾となる「2015 年 M2M プラットフォーム市場動向調査」を 8 月初旬に発刊しました。

昨今、M2M/IoT サービスの導入にあたり、プラットフォームと呼ばれる共通基盤を利用するケースが増え始めている。共通プラットフォームを利用することで、導入期間の短縮や導入費用の低減という効果が得られるからである。とりわけ、小規模で導入するトライアルなどで導入するケースには最適と見られる。

本調査では、モバイル M2M 市場におけるプラットフォームを、その機能やサービス内容から、次の 4 つに大別した。センサーやデバイス、機器等からデータを収集しアプリケーション開発までを手掛ける「アプリケーション・プラットフォーム」、アプリケーション開発の手前となるユーザー環境へのデータを転送 (接続) する「データ転送管理プラットフォーム」、デバイスの死活状態やソフトウェアのアップデート等を行なう「デバイス管理プラットフォーム」、モバイル回線の一元管理等を行なう「モバイル・ネットワーク・プラットフォーム」。



図①：M2M プラットフォームの主なサービスレイヤ



図②: 各プラットフォームの主なサービス提供領域

これまで、大規模案件等では個別の仕様に依拠してスクラッチで構築するケースが一般的と言えるが、今後は利便性などの面からプラットフォームの利用が増えていくものと期待されている。また、クラウドや自社サーバまでのデータ転送は共通プラットフォームを利用して、業務アプリケーションを個別に構築するケースも見られ始めている。その一方で、中小規模の案件等では、ユーザーがアプリケーションまで一貫してベンダーに依頼するケースも見られ、ここではプラットフォームの導入は徐々に一般的になりつつあると見られる。

市場の動向に合わせて、プラットフォームベンダー各社の事業展開も活発化している。2～3年前迄は、日系と海外ベンダーを合わせても数社程度しか事業展開をしていなかったが、2014年から2015年前半にかけて多くのベンダーが市場に参入してきた。

さらに、IoT市場への拡大を視野に入れ、従来はモバイルのバックエンドサービスを手掛けていたベンダーがBaaS (Backend as a Service) という切り口で参入してきており、今後さらに市場の活発化及び競争が激しくなるものと見られる。

【資料紹介】

『2015年M2Mプラットフォーム市場動向調査』は『国内モバイルM2M市場動向調査(2014年版)』の「第1部市場動向編」、「第2部データ通信量編」の第3部に相当する調査資料であり、IoT市場への拡大を念頭に置いたM2Mプラットフォーム市場の動向及びプラットフォームベンダーの事業動向を調査・分析しています。

昨年発刊した資料は、基本的に第1部、第2部をご購入された企業様向けの追加資料でしたが、今回発刊した新刊資料は個別での販売も行なっております。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ
 第3グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)
 TEL : 03-3866-4505